

～帯広市 宮坂建設工業～

地域住民参加型防災訓練

一般社団法人 全国建設業協会

令和元年9月12日に北海道帯広市にある宮坂建設工業株式会社の主催による、第27回 地域防災訓練が帯広市にある帯広南商業高校跡地で開催されました。宮坂建設工業は、大正11年に創業以来、一貫して、創始者宮坂寿美雄の「世の為人の為につくせ」という遺訓を守り、地域に貢献できる企業を目指し社会貢献につながる活動を実践しています。

この防災訓練は、平成5年に発生した釧路沖地震後から災害時における迅速かつ適切な緊急対応を目的に継続的に行われており、平成15年9月に発生した十勝沖地震を機に、地域の防災意識高揚と被害軽減を目的に地域住民参加型防災訓練として実施されています。全国各地で発生する大規模自然災害時には、このような訓練が活かされ、応急活動が行われました。昨年発生した北海道胆振東部地震の際にも同様に迅速かつ適切な応急活動が行われました。

訓練当日は、地域住民をはじめ、企業、地元の高校生・小学生など3,000人を超える参加者が来場し、行政機関、自衛隊、消防、警察などによる実演が行われたほか、緊急車両、パネルなどが展示されました。

* * *

訓練は2部構成で、第1部は午前8時40分に北海道各地で震度6弱の地震発生を想定し、全役職員に安否確認メールを発信するところから始まります。速やかに帯広南商業高校跡地に災害対策本部を設置し、安否確認集計後、直ちに、各工事事務所が連絡を取り合い、「BCPマニュアル」に従って、衛星電話や無線機、スマートフォンを使用し、河川・建物・現場点検パトロールを行い、被害状況を確認します。この本番さながらの訓練は、大型映像車による270インチ大型オーロラビジョンでライブ中継され、とても臨場感があるものでした。

午前10時からの第2部では、一般公開訓練が行われました。関係機関・企業による土嚢作りや土嚢積みなどの水防訓練、双腕機による瓦礫救出訓練、地元の小中学生たちのバケツリレーによる消火訓練、ポンプ車操法実演、応急処置・救護の実演、地震体験車の試乗、ロープ結び体験、煙体験、緊急車両展示、避難シミュレーションゲーム、親子防災教室、防災グッズ・パネルの展示などが行われました。炊き出し訓練では来場者にカレーが振舞われました。

また、訓練は同時に札幌会場（北広島河川防災ステーション）でも行われ、地域住民をはじめ、関係機関・企業など約1,000名の参加を募り、救護訓練、水防訓練等をはじめ、展示ブースの開設などが行われました。



小学生たちのバケツリレーによる消火訓練



双腕機による瓦礫救出訓練